

久しぶりが、 未来を動かす

渡辺仁史



think the future from hitoshi watanabe lab.

●つながり直すことで、次の一歩が見えてくる

◆「お久しぶり」のひと言から

最近、「お久しぶりです！」という言葉をよく耳にします。

研究室の卒業生からの連絡が増えているのです。「久しぶりにお会いしたい」

「仕事の相談があつて」といった連絡の背後には、それぞれの人生の節目や、もう一度つながりたいという静かな想いが感じられます。

◆再び動き出す時間

ある卒業生からのメールに「学生時代の研究を生かしたプロジェクトを立ち上げようと思う」とありました。その言葉に、彼のまっすぐな目がふとよみがえりました。「久しぶり」は、止まっていた時間が再び呼吸を始める合図のようなもの。そこから未来への一歩が動き出すことも少なくありません。

◆私自身も「久しぶり」に救われて

定年退職後、早稲田のキャンパスを離れてからも、「久しぶり」に何度も背中を押されました。OBOG会での再会、SNSでの思わぬメッセージ、石垣島を訪ねてく

れた卒業生たち。それらの出会いが、「次に自分が何をすべきか」を考えるきっかけとなっています。

◆誰かに声をかけたくなるとき

社会のスピードに流されて、立ち止まることさえ難しい日々。そんな中でふと、「誰かに連絡してみようかな」と思ったときに始まるのは、昔の時間ではなく、これからの時間かもしれません。

◆新聞も「再会」の場に

「ひとしの森新聞」も、そんな“久しぶり”のきっかけになれば嬉しい。かつての仲間や自分自身の原点と、ふとつながる時間。その風が、誰かの心にそっと灯りをともせたなら、こんなに嬉しいことはありません。

◆さて、あなたにとっての“久しぶり”は？

誰かの顔が思い浮かんだら、どうか一度、声をかけてみてください。未来は、そうしたささやかな一歩から、ふと動き出すものです。



軽井沢夏合宿（多分1985年頃）